

# 名古屋外国語大学海外派遣プログラム成果報告書

2023 年 10 月 15 日

学部・学科名 外国語学部・中国語学科

担当教員氏名 楊 紅雲

—

1. 区分	中期留学 ・ <u>語学研修</u> ・ 海外実習
2. プログラム名称	2023 年度中国語学科夏期海外研修（企業研修を含む）
3. 渡航先国名	中国
4. 派遣期間	2023 年 8 月 6 日（日）～ 2023 年 8 月 27 日（日） 22 日間
5. 派遣先教育機関名	北京外国語大学
6. 参加学生数	11 名
7. 派遣目的	現地派遣による語学研修および中国進出日系企業研修
8. 派遣内容	<p>2023 年度の海外研修は、3 年ぶりに現地派遣という形で実施することができた。プログラム内容は北京外国語大学における「語学研修」と日系企業における「企業研修」である。</p> <p>研修期間は計 3 週間、毎週平日の午前中に中国語の授業（計 14 回）を配置し、午後に企業研修（インターンシップ、計 2 回）と世界遺産の見学（計 3 回）を組んだ。</p> <p>語学研修は、2 名の現地教員による「文法」と「会話」の授業を交互に組み合わせる形で編成した。学習効果を高めるため、学生通訳（現地の大学院生）も手配したが、授業はすべて中国語のみで行われた。具体的にはベテランの現地教員の工夫により、本学指定のテキストによる学習をベースとしつつも、伝言ゲーム、中国語の歌、リズムに合わせて単語を覚えるレクリエーションなど、多彩な手法を織り交ぜた授業が展開された。そのため、参加学生は楽しく学習することができた。</p> <p>「企業研修」は、北京にある日系企業・キューピー（8 月 16 日）</p>

	<p>とイオン（8月17日）の2社訪問という形で実施した。まず座学の形で、企業側担当者による説明（中国におけるビジネス展開の特色などについて）を聴講し、次いで案内いただきながら、工場（キューピー）・店舗（イオン）を見学した。その後、学生同士でグループ討論・検討を重ねた上で、感想や疑問点を企業担当者に述べ、それに対する企業担当者の回答・説明を通して、中国における日系企業のビジネスについて学習を深めた。</p> <p>また、中国文化・歴史の体験学習を目的として、現地・北京にある有名な世界遺産（頤和園、万里の長城、故宮博物館）の見学を実施した他、伝統料理である北京ダックを賞味したり、伝統雑技（中国サーカス）を鑑賞したりもした。</p>
9. 成果	<p>2023年度海外研修の成果として以下の点が挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・語学研修：参加学生は日本の大学で学んだ中国語を実際に現地で使うことで、自身のレベルを確かめることができた。又同時に、現地でしか学ぶことができない、教科書に載っていないような言い回しや単語も学ぶことができた。また研修期間中の語学授業はすべて中国語のみで行われたため、学生は集中して受講する力とリスニング力を鍛えることができた。以上により、中国語力が確実に向上した。研修最終日の試験では学生全員が優秀な成績を取り、円満に修了した。</li> <li>・企業訪問：参加学生はグローバルなビジネス展開に対する認識と理解を深めることができた。北京にある有名な日系企業（キューピーとイオン）におけるインターンシップでは、学生は普段は見ることのできない場所を見学し、聴くことのできない話を聞き、日本企業の中国市場におけるビジネス戦略を学ぶことができた。この体験を自己の就職活動に活かしたいと考えている学生が多くいることが、研修後の学生レポートから見て取れた。</li> <li>・異文化体験：参加学生は中国や中国文化に対する関心を深めた。これは、帰国後の本学における中国語学習に対する意欲向上に繋がる。今年は3年ぶりの実地研修ということもあり、学生たちは真剣に現地の授業に取り組んだだけでなく、万里の長城や故宮博物館、頤和園の見学にも積極的に参加した。又、買い物や外食、交通移動などの自由時間に積極的に中国人と会話をし、身振り手振りを交えながら懸命にコミュニケーションを取る場面が多く見受けられた。実際に中国人と関わり、中国文化を体験したことで、学生は様々な刺激を受け、学習に対する意欲を高めたものと思われる。</li> </ul>
10. 備考	

以上

## 2023年度 中国語学科 夏期海外研修レポート

提出者：和田 絵理奈

所属：中国語学科 3年次

3週間のみの海外研修でしたが、学力面、文化面共に多くのことを学べたと感じました。「百聞は一見に如かず」という言葉のように、実際に見て触れることは有意義な時間であったと感じました。

研修期間には、北京外国語大学での授業のみにならず、頤和園や故宮などの文化遺産の観光やキューピー、イオンのような有名日系企業でのインターンシップへの参加を計画して頂きました。講義に通訳担当の中国人学生が参加して下さったことにより、実際に会話で用いる中国語会話を学べたことが現地で講義を受けた意味になると考えます。

講義では週末の出来事や日本と中国の差などを中国語で話す機会が多く、語学力向上の面においてそのような機会を設けて頂いたことに感謝します。講師の方々は日本文化へ非常に興味を持っており、文化交流が行え、特に中国語力を向上できた点として、やはり店や駅などで実際に中国語を用いて自力で会話したことが大きいと感じます。

卒業後は日本と外国を繋ぐ物流や貿易職などにおいて貢献したいと考えており、インターンシップでは海外進出日系企業において物流ルートが重要になることを学び、就職活動への意識をさらに高める事が出来ました。

## 2023年度 中国語学科 夏期海外研修レポート

提出者：北洞 尚太郎

所属：中国語学科 2年次

私は今回の海外研修を通して初めて中国を訪れました。今までは、正直中国に対して空気が良くない、中国人はマナーが悪い等の偏見を持っていました。しかし、実際は親切な人が多く、不愛想に見えても優しさを感じる人もいて、とても心温まりました。最初の一週間は曇りが続きましたが、その後は青空が広がり、空気が汚れていると感じることもありませんでした。

大学での授業は文法と会話の授業に分かれていて、初めは現地の授業についていけるか不安でしたが、2人の先生方はどちらも優しくゆっくり喋ってくれるので安心して授業を受けることができました。

平日の午後と土日は授業が無く自由な時間があったので、友達とタクシーや地下鉄を使って少し遠くへ観光にいたり、元々スケジュールに組み込まれていた万里の長城、故宮博物館、頤和園を訪れました。どこも今まで写真や教科書でしか見たことのないような場所でしたが、実際訪れると信じられないほど大きくしっかりした造りで、偉大な中国の歴史を身をもって感じました。

三週間という短い期間でしたが、私にとってとても貴重な体験になりました。

## 2023年度 中国語学科 夏期海外研修レポート

提出者：丸山 拓途

所属：中国語学科 2年次

今回の海外研修は約3年ぶりの実地研修とのこともあり、応募を決めた。

研修は3週間。平日午前中に4コマ、2名の現地教員による授業があった。内容は「文法」と「口語」に分かれており、それぞれテキストを用いて学習を進めた。特に「口語」の授業はテキストを使用する他に様々なレクリエーションがあり、リズムに合わせて動物や植物の名前を言うゲーム、伝言ゲームや中国語の歌を歌うなど、楽しく学ぶことができた。また、キューピー、イオンの見学では中国と日本の経営戦略の違いを学んだ。中国でのビジネスを志す私にとって大変貴重な機会だった。

3週間という短い期間ではあったが、平日午後と土日は自由行動だったので現地で中国語を実践する機会は十分にあり、耳が中国語に慣れるのは勿論のこと、生の会話表現を学ぶ上でも非常に有効だった。また、自分の中国語が通用するという実感が自信に繋がった。この経験を忘れず今後の中国語学習に取り組んでいきたい。

最後に研修に関わった全ての関係者の皆さんへの感謝で締めたい。感谢您们！